

令和4年度第3回三条市幼児教育推進会議録（概要）	
日 時	令和5年2月10日（金）14：00～15：10
会 場	市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	<p>委 員：中野会長、渡辺副会長、本間委員、村田委員、石塚委員、加々見委員、小塚委員、刈屋委員、矢坂委員 （欠席委員）唐沢委員</p> <p>事 務 局：子育て支援課 平岡課長、相場子どもの育ちサポートセンター長、伊藤主任、諸橋主任、竹中幼保小連携推進員 学校教育課 熊倉課長、新保指導主事</p> <p>報道機関：なし 傍 聴 者：なし</p>
会議内容	
中野会長 平岡課長	<p>【開 会】 これより令和4年度 第3回幼児教育推進会議を開催する。</p> <p>【挨拶】 今年度は幼児教育推進プラン策定の年であり、本日の会議で3回目となる。6月の1回目の会議では今後のスケジュールや問題意識を提示し、その後に第2次プランの取組総括を整理の上、9月の2回目の会議で第3次プランの考え方と骨子を示した。 本日はこれらを踏まえたプラン案全体をお示しするものである。中野会長からも何度かにわたってご指導いただき本文形式としてプラン案を示している。今回のプラン案は、すべては子ども達の「生きる力の基礎」を育てるために具体的にどう現場で幼児教育を進めていくのか考え抜いたつもりである。 活発な意見をいただき、子ども達の幼児教育にかかる現場の取組の実践書としてまとめたいと考えている。</p>
相場センタ ー長	<p>【出席者数の確認】 10名の委員のうち、唐沢委員が欠席であり、本日9名の委員が出席となっている。三条市幼児教育推進会議要綱第6条第2項の規定により半数以上の委員の出席があり会議は成立している。</p>
中野会長	<p>【議事】 議題に入る。議題の（1）三条市幼児教育推進プラン（第3次）の策定について事務局より説明を願いたい。</p>
平岡課長	<p>（別紙資料に基づき説明） （欠席委員からの質問（書面）に対する回答について説明）</p>

中野会長

プラン案の19ページにある「共通化」とは、3歳以上児について、多少文言は違うが保育所、幼稚園及び認定こども園の幼児教育の目的、目標、内容を一括して同様な形で示されたことが共通化の意味合いである。

目標レベルでは、育成を目指すべき資質能力の3つの柱の内容が幼児期の段階から高校、さらには大学へと続く。平成29年版から今後10年間で目指していこうという形になっている。

共通化は、幼保小連携では、学びの連続性の部分において関わってくる。

小学校へ滑らかに学びを接続させるというよりも、学びが続いていくということを担保するという考え方であると思う。

「幼保小連携会議の充実」を示している40ページの部分が重要になってくるのではないか。

40ページの幼保小連携の趣旨・目的に対する理解だが、何のために連携が必要なのか、その子どもの育ち、学びをどうつなげていくのかという趣旨である。

形式的に幼保小連携の会議は開かれていても、子ども一人一人が小学校より上に上がった時にどう育って行くのかがやはり本旨だと思う。その子の得意なところや不得意がこうしたら上手くいくなど、その子の良いところをどう伸ばしていくかという部分を小学校側にも伝えていって欲しい。

確実な引継ぎでは、どうしてもカリキュラムや引継ぎに意識が行くが、何のために会議をやるかという、やはり子ども一人一人の良さや育ちを確実に伝える場が必要であり、そのために幼保小連携会議が開催されていると思う。そこをぜひつなげていって欲しい。

ここは三条市ならではのシステムであり、第1次プランの時からこだわってきたところである。育ちの連続性や学びの連続性、そこを意識した上でこの連携会議に臨んでいただけたらと思う。

文言としては幼保小連携の趣旨、それから目的に対する理解はこれでいいが、補足して言えば、今話したとおりである。

平岡課長

我々もまったく思いは同じである。17ページのアンケート結果を参照していただきたいが、幼保小連携の取組を続けてきたのだから、小学校の先生も、保育所、幼稚園、こども園の先生も意識は同じ、心は一つで取り組みを進めてきたという認識であった。

しかし、実際アンケートをとってみると、風土の違い、職場の違いもあり意識の統一がもう少し必要と感じた。特に、グラフの④、⑤の所では、それぞれで意識の差が出てしまっている。

会長の言われるとおり、幼保小連携会議や交流活動は、それを実施することが目的ではなく、連続性を担保するための舞台装置にすぎないと認識している。これらをどう工夫していくかによって連続性が強化されるのではないかと考えている。

	<p>具体的方策については、相談させていただきつつ今後の取組を進めていきたいと考えている。</p>
中野会長	<p>記載内容としてはこれでよいが、実際の中身として、また工夫していただければと思う。</p> <p>次に36ページの下から3行目、保育者の育成計画について、イメージとしては新潟市などが、採用時や採用後5年目などの目安を作って育成計画を立てているが、そういったものを想定しているのか。</p>
平岡課長	<p>明確なイメージについては、まだ持ち合わせていないが、身に付けるべき必要な知識や技術について、会長が言われた、どの経験年数において身に付けていくべきか、次元的な部分と知識の幅の部分が、しっかりかけ合わさるスキルマップ的な計画が必要になってくるのではないかと考えている。そして、それに沿って様々な研修を進めていく必要があるのではないかと考えている。</p>
村田委員	<p>先程の幼保小連携の話に戻るが、平成30年4月からの指針改定で小学校以上で必要とされる3本の柱が、そのまま幼児教育の基礎という形になるということで、概念の上ではすごく連携が図られている。</p> <p>しかし実際の現場の感覚としては、幼児教育の分野で考えているやり方と、小学校での内容等が全然異なっていて、正直なところ、つなぎ方としてはなかなか見当がつかない。</p> <p>現場はどちらも一生懸命やっている。小学校ではカリキュラムがあり小学校の先生は一生懸命それに沿って実施していて、それをどうこうすることは非常に難しいと思う。</p> <p>若干発達の凸凹があるお子さんに関して、すごく密に保護者と保育園とで個別の発達支援計画を作成し、それを幼児教育施設と小学校と保護者が密に話ができるとすごくいい形になる実感はある。</p> <p>しかし、それが大きな規模になった時にどこまで実現可能なのかは正直検討がつかない。すごく狭い部分ではうまくいっている事案も多くあるのではないかと思うが、正直なところ難しいと感じているところもある。</p> <p>また、保育者の資質や専門性の向上のところに関しては、幼児教育の分野からするとすごくありがたいことが多く書かれている。</p> <p>特に職員の育成は、問題になっている所を課題として示されている。まさにこの通りやっていけばいい部分が多くあった。</p> <p>そのほか全体として現場での実効性を考えると、三条市が独自にやっている年中児発達参観、発達支援コーディネーターについては、今10年位経過したが、すごく機能してきているし、年中児発達参観の従事者がどんどんレベルアップしてきている。</p>

	<p>すごくいいことをしているし、いい方向を向いていることは実感できているが、それをするマンパワーが足りなくなってきていて、厳しいと感じている。マンパワーの話はここで話すことではないので置いておく。</p>
中野会長	<p>村田委員にお聞きしたいが、保育士の資質の部分でまさにピンポイントだと言う部分があればお願いしたい。</p>
村田委員	<p>専門性の向上のところと記載されていることと資質のところと同じだと思う部分がある。</p> <p>29、30 ページの「対話・語り合い」の重要性、互いの意見を伝え合うことは、若い職員に対する指導法としてはすごい重要であると思う。私の背中を見て育ちなさいというのは昔のことで、対話・語り合いの手法はすごく重要で、我が園でもなんとか時間を作って複数人のグループを作って話をするをやっているところである。</p>
平岡課長	<p>村田委員から、職員の育成と対話・語り合いを結び付けてお話だけたことは非常にありがたいご意見をいただいたと感じている。</p> <p>このプランでは、対話・語り合いの30ページの下線を引いている米印を読む時は、育成の部分である37ページを読んで、育成のページを読む時は、対話・語り合いのページも読むことで構成している。</p> <p>対話・語り合いというのは、まさに保育所内のOJTだと思う。人が育つ機会の7割はOJTによるものと言われている中で、ここが本当に大事になってくる。</p>
石塚委員	<p>保育所評価、振り返りのところが大事であると感じている。</p> <p>保育所でも、保護者への発信として写真を使った記録なども用いて発信している所だが、時間の確保がすごく難しい。</p> <p>しかし、写真を使った記録を元に、小さい単位の語り合いが少しでもできればと考えている。園内研修で活用し、「この先生のこの保育いいね」というそんな語り合いが少しでもできればと思っている。</p> <p>また3次プランでしっかり示していただいたことで、より保育士に実践できるようにしていけたらいいと感じている。</p>
渡辺副会長	<p>先生方の言われることは理解できるのだが、今回こうしてはっきりとわかりやすく文章化し、園長という立場から見ると、これを実践するための時間をどのように捻出していかうかと、このプランを見ながら悩んだ。</p> <p>すごくいいことが書かれていて、本当にこれができたらいいと思うし、一度にできないとしても少しずつ実践していけたら、よりよい三条市の保育が行われていくと感じた。</p>

平岡課長	<p>プランの取組により業務量が増高すると懸念されてのご意見と思う。</p> <p>2次プランでは、子どもたちの様々な課題に対応していくため、運動遊びなどの新たな取組にもしっかりと着手する姿勢を持って進めてきた。</p> <p>他方、この3次プランでは目新しいことは実は一つもない。</p> <p>保育者の皆さんが日々保育を実践されている中で、その一つ一つをこう意識していきましょうということを書いている。今回のプランでは、まずは基本に立ち返ろう、しっかりと目的意識を持って行動を変えていこう、そういったところに力点を置いている。</p> <p>決して、新しい取組を上乗せするといったものではない。</p>
中野会長	<p>プラン推進のために、様式例や実践例を用意するなど、市のバックアップや支援体制があるとありがたいのではないかと。</p>
平岡課長	<p>力を入れていきたいとするPDCAサイクルの振り返りの部分など、進んでいる園は既に定着・浸透している。園によりばらつきもあると思う。</p> <p>例えばこういった方法だと効果的ではないかといった、一般的なひな形などを市のほうでも考えていく必要があると思っている。</p>
中野会長	<p>学校教育課の方に確認したい。スクールソーシャルワーカーは、市で何人かいるのか。それともその主管は、子育て支援課か。</p>
熊倉課長	<p>学校教育課が主管で1名配置をしている。</p> <p>中越教育事務所に3名配置されており、数年前から週2日の勤務だったが、要望に対してすぐに対応することが難しいということから、学校教育課において今年度から毎日勤務として配置している。</p>
中野会長	<p>スクールソーシャルワーカーが幼稚園や保育所、こども園に伺うことはあるのか。</p>
熊倉課長	<p>学校教育課の関連で伺うことは、内容によりある場合もあるかもしれないが、現在、小学校や中学校の子どもの関連で動いていることが中心になっている。</p>
中野会長	<p>新潟市でも何年も前から各地で配置したいとしたが予算が措置されず、現在は市教委にだけ何人かの配置となっている。</p> <p>色々なことをやっていくとなると、職員1人では業務過多である。</p> <p>また、保育所、幼稚園、小学校、中学校だけの問題ではなく、家庭を支えていかないと上手く機能しないという事案が多いと思う。</p>

さらに、これからこうした事案が増えてくることになると思う。
そうなったときに学校教育課で1人の配置とのことだが、スクールソーシャルワーカーの更なる活用や通級指導教室との連携など、学校を所管する課等と更に密な連携を図っていただければと思っている。

【その他】

平岡課長

本日のご審議ご意見を踏まえ、今後2月15日開催の三条市教育委員会定例会、2月17日開催の市議会総務文教常任委員協議会で幼児教育推進プラン（第3次）の内容について協議をお諮りしたいと考えている。

また、2月20日から3月13日での3週間でパブリックコメントを実施し、市民の皆様から当プランについてのご意見を伺った上で、第3次プランを固めたいと考えている。

最終的に3月27日予定の教育委員会定例会において第3次プランとして確定したいと考えている。

中野委員

本日予定していた内容はすべて終了した。

以上で、第3回三条市幼児教育推進会議を閉会する。

【終了（15：10）】